

(様式1)

大学名	早稲田大学	学問分野	学際・複合・新領域
専攻等名	政治学研究科政治学専攻国際関係・比較政治、アジア太平洋研究科国際関係学専攻、比較法研究所、社会科学研究所地球社会論専攻、経済学研究科理論経済学・経済史専攻・応用経済学専攻、現代政治経済研究所、現代中国総合研究所		
拠点のIBPプログラム名称	現代アジア学の創生ーアジアの研究教育拠点のための構想		
拠点リーダー氏名	毛里和子	所属部局・職	政治学研究科・教授
プログラムの概要	早稲田大学大学院政治学研究科とアジア太平洋研究科を中心に日本およびアジアでの「現代アジア学」研究・教育拠点を作る。国内外の共同研究、「現代アジア研究」若手研究者の養成を進めて、「アジアの知的コミュニティ」の構築をめざす。		
拠点形成の目的・必要性	アジア学の伝統の深さ、現代アジアを社会科学的に分析する豊かな人材という本学の利点を活用して、日本との関係がもっとも密な東アジア、東南アジア、北東アジアを主たる対象に現代アジアを社会科学的に分析する。研究面では「現代アジア学」の新パラダイムの模索のために、国内外の共同研究をアジアの学際学・比較学・国際関係学の3本を柱に推進する。教育面では、現代アジアに創造的に迫る若い人材を養成するために彼らを経済面・教育面で支援する体制を作り、また本学各研究科に現代アジア研究を共同講座、オープン講座などを設置して緩やかなコンソシアムー早稲田大学大学院現代アジア学研究院WAGIASーの創設をめざす。		
研究拠点形成実施計画	<p>「現代アジア学」創生のために次のような事業を行う。</p> <p>① 共生と協力の「新アジア」構築に寄与する学問的パラダイムを模索するため、学際的、比較的、関係的アプローチを交差させて国内・国際共同研究を行う。学問的な新地平の開拓、アジア地域の国家と人々の共生に寄与する方向性の提示を目標とする。</p> <p>② 日本のアジア学のレベルは高いにもかかわらず対外発信が少なく国際的影響力は決して大きくない。working paper, Journal-Contemporary Asian Studiesなどの発行、「現代アジア学」国際シンポジウムの開催などを通じて、メンバーや共同研究の成果を積極的に対外発信し、アジアの知的コミュニティ作りに貢献する。</p> <p>③ 現代アジア学情報センターをめざした情報の収集と公開活動を進める。</p>		
教育実施計画	<p>「現代アジア学」に係わる若い人材を養成するため次のような事業を行う。</p> <p>① COE 研究員(CR)制度、Research Assistant(AR)制度を作り、本学でアジア研究を進める有為な博士課程学生(DC, PD)を経済面・教育面で支援する。</p> <p>② 博士課程在学学生などの現地留学や現地調査を経済面・教育面で支援する。</p> <p>③ 博士課程留学生受け入れ制度を拡充しアジアから優秀な若手研究人材を確保する。併せてDubble Degree取得を保障する制度を作る。</p> <p>④ 関係する本学社会科学系各大学院に「現代アジア学講座」、共同講座、オープン講座を設置して教育効果を高め、院生の学際的研究、共同研究を促進する。</p>		

早稲田大学大学院現代アジア学研究院の三位一体活動
Waseda Graduate Institute for Asian Studies [WAGIAS]

